

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400595		
法人名	社会福祉法人 出雲南福祉会		
事業所名	グループホーム 寿生の丘(たけ棟)		
所在地	島根県出雲市大津町3622-15		
自己評価作成日	令和元年11月30日	評価結果市町村受理日	令和2年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の開所時より認知症ケアの基本であるご利用者を真中に置いたケアと寄り添いを心がけてきました。明るく元気な職員が見守る中、その人らしく、また笑顔のある暮らしが維持出来るよう支援しています。定期的な地域ボランティアの来所、近隣保育園との交流、学生の職場体験の受け入れなど幅広く地域との関わりを持つ様心がけ、「地域の中の寿生の丘」として向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年、全職員が目標を考え、それをもとにみんなで話し合ってそれぞれのユニットの目標を作り、必要な時はその都度話し合い、利用者のペースを大事にした支援をしている。利用者同士がホールで団らんしたり、好きなように部屋で過ごしたり、紙でゴミ箱をつくり馴染みの人に届けるなど、利用者一人ひとりの思いを受け入れ、職員は穏やかに見守り接している。地域のボランティアの来訪も長く続いていて、大正琴を演奏したり家族会での外出時には協力を得るなど利用者と馴染みの関係を築いている。職員、管理者は、もっとしたいことや課題を持ちながら利用者を尊重したケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と運営方針を立てている。又、ケア目標も持ち、毎月職員会やユニット会を開き理念の実践に取り組んでいる。職員自らの理念とすべく、朝礼時理念を唱和している。	玄関、事務室に掲示し、毎朝唱和をして意識付けを図っている。それぞれのユニットのケア目標を決めて取り組み実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治協会に入っている。地域のボランティアと交流を持っている。敬老会には地域の高齢者や保育園児を招待し共に楽しむ時を過ごす。	自治協会に加入し地域の情報を共有している。定期的にボランティアの来訪があり楽しみごとや外出の支援を受けている。敬老会では地域の高齢者や保育園児と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域社協の認知症の啓発活動に参加したり、中学生の職場体験や実習生の受け入れ等で交流をし理解に繋げる活動をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現在の生活状況を報告し意見交換を行ったり情報を得る事によってサービスの向上に努めている。	法人の他事業所と一緒にいき活動や利用者の状況を報告し、委員それぞれの立場から情報やサービスへの助言や要望を受けている。12月には会議後、一緒にケーキを食べる機会を設けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し情報交換をし、協力を得ながら関係を築いている。又、常に市と連携をとり、情報把握に努めている。	運営推進会議に市の担当者に参加して貰い、事業所の実情を伝え取り組みへの意見や情報を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開き全スタッフが理解しており自由に出入りできるよう施設全戸開放している。やむをえず必要の際、家族に十分な説明を行い同意書をもらうようにしている。	外に出る人もいるが、勉強会で内容を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今年度、地域の「認知症高齢者の声かけ」訓練に管理者が参加した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケアの原則をステーション内に貼ったり定期的に勉強会を開いている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会や職員研修の場を設け勉強し周知を図っている。又、家族からの相談にも応じている。ご利用者の中に後見人がついている方もおられるので理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際利用者や家族に十分な説明を行い、話し合い、理解が得られるよう努めている。改定等があった時はご家族に十分な説明を行い納得の上同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。 苦情受付、苦情解決責任者、第三者委員を設けている。苦情があった際には検討し改善している。家族会では意見交換の時間を設けている。	運営推進会議で利用者、家族共に意見を言う機会をつくり日頃の想いやケアへの要望を聞いている。年2回、日曜日に家族会を行い食事会やスライドショーを行い交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的な職員会や、それ以外にも必要の際には会を設け検討し、その意見をまとめ代表者に伝える機会をもつようになっている。	会議や、日常的に職員の意見や提案、勤務希望などを聞き、検討しながら働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に管理者の意見を聞く場を持ち、管理者及び職員個々の状況把握をし、働きやすい環境、条件の整備に努めている。又、職員のスキルアップの為に研修等の参加も積極的に推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修に出る機会を持ち、活かせるよう努めている。又、伝達研修を実施したり個人のステップアップ研修(資格取得等)を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの施設の見学や実習を行い参考にし向上出来るよう努めていたが最近出来ないでいるので検討課題にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で相談にのり、入所決定時には実調に行くことにより現状把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時もしくはサービス利用開始時には家族の要望を聞き気持ちを受け止め関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携を取り、提供可能なサービス内容の助言、提案をしている。現状を把握し個々にあった支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を中心に置き常に寄り添い共に生活をしている。個々の希望を大切にしている。又、日々の生活から学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に家族と十分にコミュニケーションを取り、何でも言い合える環境作りに努力している。利用者と家族双方の気持ちを理解し良い関係が築いていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪を大切に、また来て頂ける様声掛けをしている。自宅への外出・外泊などが出来るよう家族に働きかけている。墓参り、買い物等の支援もしている。	知人や家族などとの関係を大事にし、家族の協力を得て外泊や外出、墓参りなど支援している。ボランティアとの関係も長く続いていて馴染みの関係を築いている。紙でゴミ箱をつくり以前いた所に届けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に入りトラブルなくコミュニケーションが取れるよう和やかな雰囲気作りに努力している。車椅子の利用者も孤立されないように他の利用者との空間の共有が出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それまでの関係を大切にしている。退所後、家族からの連絡もあれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に希望や意向の確認を行い、困難な方は表情や行動から読み取る様努めている。	家族から情報を得たり、日々のコミュニケーションの中での会話や表情、行動などから思いを把握し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人と日々の関わりの中から情報を得ている。又、入所前に担当していたケアマネージャーからの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを通し情報を共有し把握に努めている。心身の状態が変化した際にはその都度モニタリングやカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	Dr・NS・家族とも連携しながら随時カンファレンスを行い、本人の現状に即した介護計画を作成しているよう努めている。	受け持ち制を取り、毎月「情報シート」に言葉や様子、気づきなどを書き出しモニタリングを行っている。面会時や電話で家族の意見を聞き、医師や看護師からも話を聞きながら現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの中で気付いたことや様子を記録及び申し送り等で報告する事によって情報を共有し、それを活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて家族が宿泊出来る様環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治協会にも入りボランティアの方の協力を得たりし行事や外出を行っている。又、地域の保育園とも交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のもと、受診または往診が出来るよう支援している。月一回の定期受診の際、日々の状況を報告しかかりつけ医と連携をとりながら適切な医療を受けられるよう努めている。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を受診し、協力医療機関には職員が同行し支援している。協力医療機関では整形外科の受診もできるようになり、安心して医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ常に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院と情報を交換する等連携し、病院と施設が双方スムーズに受け入れが出来る体制をとっている。アフターケア等についても情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化がある時は都度家族に報告、相談し、Drを含めて話し合い、全員で方針を共有し、施設で出来る事を見極めスタッフ一丸となって支援している。	これまでに看取り支援の経験があるが、現在は職員、看護師の体制上、困難がある。状態変化に合わせて関係者が話し合い、医療機関と連携して取り組んでいる。医師に終末期の希望を伝えている利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い日頃より状況に応じた対応が出来る様に備えている。消防署より講師を迎え、急変時にAEDが使用できるよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に施行している。又、地域の消防団に協力依頼してある。	年2回、火災訓練を実施し夜間想定も行っている。備蓄品は隣接する法人事業所にある。運営推進会議で家族から防災に対しての質問を受け状況を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬し一人一人を大切にしている。又、言葉掛けには意識し気をつけている。	接遇の勉強会を行い利用者を尊重した対応や言葉使いに気をつけている。無理強いせず利用者が自分のペースで暮らせるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力に合わせ行動し、傾聴や説明を行い押しつけることなく可能な限り自分で決めて頂くようにしている。(待つ介護を心掛けている)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや希望に沿って一日を過ごしてもらうよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り自分で選ぶことができるように支援している。散髪については本人の希望に沿って移動理容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、食器洗い、お茶口作り等を出来る方にして頂き、役割のある生活をして頂いている。自分専用の箸、湯呑を使用する事で家庭での雰囲気近づけている。	毎食、法人の事業所で作った食事が提供されている。利用者は食器の片づけや台拭きなどできることを行い、時にはおやつづくりを楽しんでいる。家族や、行事に合わせてボランティアが料理をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士の管理の元バランスを考えたメニュー作りを行っている。水分摂取の為にいつでも飲める様にスポーツ飲料や番茶を用意している。栄養不足の方には補食で補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に合わせたケアを行っている。嗽が十分にできない方はウェットガーゼなどの介助用品を使用し、清潔を保っている。ポリデントで義歯洗浄も行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握している。可能な限りおむつのない生活が出来る様支援している。又、プライバシーを尊重し嫌な思いをされない様努めている。	できるだけトイレで排泄できるように声をかけ支援している。自分でトイレに行っても便座に座りにくい人には現在便座の高さなどを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状態に合わせた下剤の活用や水分補給、適度な運動をして頂く様心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望時に入浴して頂いている。汚染時には都度シャワー浴をして頂いている。又、季節に合わせた入浴も実施している。(柚子湯等)	あまり日にちを空けないように、午前、午後、利用者の希望に添うように支援している。洗面器やシャンプーなど自分の物を準備している。季節の柚子湯などを楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り一人一人のペースや希望に沿って一日を過ごしてもらうようにし、個別に休息を取って頂いている。気持ちよく休めるよう室温調節にも努めている。又、夜間不眠時や希望時には飲茶して頂いたり傾聴や寄り添いを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋や説明書を保管し、薬についての理解を深め、共有している。内服に変更があった時には、体調の変化の確認に努め、必要時に応じてバイタルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を踏まえその人の出来る事や趣味を楽しめる様個別に支援している。(塗り絵、裁縫、外出、習字、工作等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやお茶をしに出かけたり施設周囲を散歩したり外気浴等、個々の体調に合わせて行っている。又、墓参り、買い物等に出かける機会を作っている。	周辺を散歩したり法人の他施設から外を眺めたり、ドライブなどに出かけている。春の家族会は外で食事会をし、ボランティアの協力も得ている。	いろいろな条件の中で困難なことがあるが、外気に触れるために身近でできることを話し合い、工夫した取り組みをされることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の希望にて財布を持つ利用者もいる。お金の管理ができない利用者は、可能な限り希望時には預かり金から買い物が楽しめる様支援をしている。又、買い物場面では本人が支払える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話がかけられる様支援をしている。又、本人から家族へ年賀状や手紙が出せるように取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾り、壁には季節毎に塗り絵や習字を飾っている。又、玄関前には花等を植えて和やかな雰囲気になっている。日除けカーテンを手作りしたりトイレは気がついた時に掃除をし、心地よく使って頂ける様心掛けている。	季節の花や飾りつけ、手作りの座布団やカバーなどで明るい雰囲気づくりをしている。新聞や雑誌、アルバムなどを置き、広い炬燵のスペースやソファを設置して思い思いに過ごせるようにしている。浴槽は深いので台を使い対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを、畳間にはこたつを置き、個々や少人数でくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが馴染みの家具や小物を自由に持ち込んでもらい、居心地の良い空間になる様に工夫している。	馴染みの家具や趣味の物を持ち込み、甥の手作りの整理棚を使っている人もいる。自分らしく暮らせる環境を作り、室温や日差し、転倒のリスクにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所には分かるように札をかけたたり、カレンダーは分かり易い所に大きくつけている。又、個々にあった活動ができる場面を見出し働きかけている。		